「海外スポーツビジネス経営視察プログラム」視察候補概要

Cosm LA







施設概要

- ■「没入型(immersive)」のエンターテインメントとテクノロジーを 融合させた施設
- スポーツ観戦やライブイベント、アート、教育/サイエンス用途など様々なコンテンツを"共有現実(Shared Reality)"空間で体験できることを目指している
- 2024年頃から、主要都市(ロサンゼルス、ダラスなど)に施設をオープンしており、今後さらに拡大予定
- LED ドームディスプレイの導入(非常に高い解像度、明るさ、コントラスト)で、視覚品質にこだわっている
- 音響設備も充実、映像だけでなく音での没入感も高める設計 が施されている

視察内容 (予定)

- 一般入場での視察を想定
- Cosmの各ゾーンを一般来場客目線で新たなエンタメ消費スタイルを視察・体験
 - The Dome:施設のメイン部分となるドーム型スクリーンのあるゾーン
 - The Hall:巨大スポーツバー・ホール的空間
 - The Deck:屋外のテラススペース

参照リンク

Los Angeles, CA | Cosm



組織概要

- 正式名称: Anschutz Entertainment Group, Inc.
- 事業セグメント(一部):
 - スポーツ:プロスポーツチーム保有や大会運営、スポーツ施設運営など(例: LA Galaxy、LA Kings、Eisbären Berlin など)
 - グローバル・パートナーシップ / スポンサーシップ : 命名権 (ネーミングライツ)、プレミアムシート、戦略的提携などを通じ、スポンサー企業とエンターテインメント事業を結びつける事業
 - 会場・施設運営 / 不動産:世界各地のアリーナ、スタジアム、複合エンタメ施設(例: Crypto.com Arena、IGアリーナ)などを所有・運営、またエンターティンメント地区や都市開発プロジェクトも手掛ける

視察内容 (予定)

- スタジアム・アリーナを収益拠点として最大限活用するための戦略・運営モデル
- スポンサー価値の最大化手法(命名権、アクティベーション設計)・長期的パートナー関係の構築プロセス
- マルチクラブオーナーシップ、グローバル展開における戦略

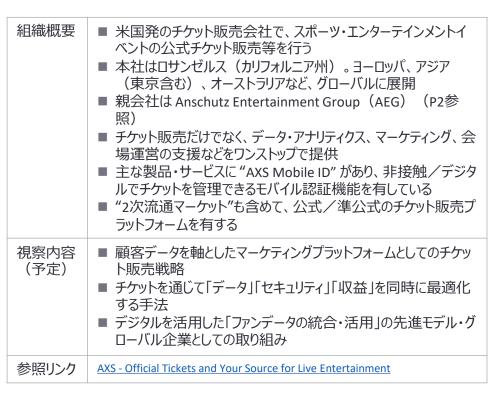
参照リンク

GIVING THE WORLD REASON TO CHEER | AEG Worldwide

AXS

L.A. Live (Crypto.com Arena)









施設概要	 ■ L.A. Live ■ 開業年:2007年 ■ 運営主体はAnschutz Entertainment Group (AEG) (P2参照) ■ スポーツ・音楽・エンタメ・宿泊・飲食が一体化した複合エンターテインメント地区 ■ 行政・民間連携により開発され、ロサンゼルス中心部の都市再開発モデルとして高評価を受けた ■ Crypto.com Arena ■ L.A. Liveの構成施設の一部 ■ 主なホームチーム: Los Angeles Lakers (NBA)、Los Angeles Kings (NHL) ■ 収容人数:約19,000人
視察内容 (予定)	スタジアム・アリーナを地域経済と都市ブランドの中心に据えた「街づくり型スポーツビジネス」モデル施設の稼働率と収益性を最大化するアリーナ経営の仕組み試合観戦を超えた「滞在型エンターテインメント体験」を創出する工夫
参照リンク	L.A. LIVE • Crypto.com Arena

LA Galaxy

Angel City FC



組織概要

- MLS (メジャーリーグサッカー) 所属クラブ
- ホームスタジアム: Dignity Health Sports Park
- 親会社:Anschutz Entertainment Group(AEG)(P2参昭)
- MLSの人気を牽引してきたクラブであり、デイビッド・ベッカム、ズラタン・イブラヒモビッチらの加入で国際的注目を集めることに成功した
- 地域に根ざしたコミュニティプログラムも展開し、青少年育成や 社会的活動にも積極的である

視察内容 (予定)

- 地元・海外での露出拡大、ブランド力拡大の戦略
- 多様なファンを巻き込み、長期的なロイヤルティを築く仕組み
- 地域企業との連携、社会貢献活動やコミュニティ活動の実績、 活動評価手法

参照リンク

LA Galaxy

	FC
組織概要	 National Women's Soccer League (NWSL) 所属クラブ ホームスタジアム: BMO Stadium (旧「Banc of California Stadium」) (ロサンゼルス) 2020年にクラブ設立を発表。2022シーズンから公式戦参加。 創設メンバーには、俳優の Natalie Portman、実業家・ベンチャーキャピタリストの Kara Nortman、実業家の Julie Uhrman らが含まれる。その他、スポーツ界・エンタメ界の著名人が多数参画(例: Serena Williams、Billie Jean King、Mia Hamm等) 2024年7月、Bob Iger (The Walt Disney Company CEO) および Willow Bay が支配株を取得し、クラブの企業価値が約2.5億ドルに達したと発表された
視察内容 (予定)	 女性/多様性を重視した出資モデル 「ロサンゼルスを背負う」「包摂性・女性スポーツ支援」「エンタメ×スポーツ」等のテーマを融合させたブランディング戦略 女性スポーツチームとして商業モデル・今後に向けた展望
参照リンク	Home Page Angel City

Los Angeles Clippers



組織概要

- NBA所属クラブ
- ホームアリーナ: カリフォルニア州イングルウッド (Inglewood) にある新アリーナ Intuit Dome (2024-25シーズンから稼働) を使用
- 2014年にSteve Ballmer(元マイクロソフトCEO)がチームオーナーとなり、経営を刷新している
- Intuit Dome は「次世代型アリーナ」として、観客体験・商業施設・ブランド価値を高める目的で構築されており、新アリーナを活用した施策等に注目が集まっている

視察内容 (予定)

- 新アリーナ Intuit Dome移転を契機にしたブランド刷新・ファン体験強化に関する戦略
- 大都市ロサンゼルスという競争環境(例えば、リーグ内・他スポーツとの共存)でのブランド確立に向けた戦略
- SNS・デジタルプラットフォームによるファン拡大戦略(特にアジア市場)

参照リンク

<u>Los Angeles Clippers</u> | The Official Site of the Los Angeles Clippers

Los Angeles Dodgers Dodger Stadium



組織概要

- MLBナショナルリーグ西地区所属球団
- ホームスタジアム: Dodger Stadium (収容人数約56,000人)
- MLB の中でも観客動員数・収益規模ともにトップクラスを誇る 球団であり、スポーツビジネスの先進モデルとして注目されてきた
- アジア(特に日本・韓国・台湾)や中南米出身選手を積極 的に獲得し、国際的なファンベースを形成しており、グローバル 展開にも長年積極的に展開している
- スタジアム体験(観戦体験、グッズ・飲食)に力を入れており、 来場者満足度の高い施策を展開

視察内容 (予定)

- 球団のグローバル展開における戦略・事例(特にアジア市場)
- チームの歴史やブランド価値を最大化しつつ、チケット・グッズ・スポンサー・デジタルを中心とした多角的収益モデル
- Dodger Stadiumでの体験価値向上施策・インバウンド施策

参照リンク

Official Los Angeles Dodgers Website | MLB.com Dodger Stadium: Home of the Dodgers | Los Angeles Dodgers

LA84 Foundation



組織概要

- 1984年のロサンゼルスオリンピックの収益の一部を活用する目的で、ロサンゼルスオリンピック組織委員会の関連組織として設立された
- 1984年オリンピックの黒字剰余金のうち、南カリフォルニア地域 (Southern California) に配分される分(当時全体の 40%)を 原資としてスタートしている
- ミッション:スポーツと遊び (play) を通じて、青少年の発達を前進させる (positive youth development) こと
- 主な事業(一部):
 - 助成:定期的な助成金プログラムを通じて、青少年スポーツプログラムを運営・拡充する団体を支援(これまでに1100団体以上に助成を行っている)
 - 研究・知見の発信、会議・フォーラム開催
 - 施設・インフラ支援/整備
 - 青少年参加・参画プログラム

視察内容 (予定)

- コミュニティ事業の評価方法、地域貢献活動の持続的な展開、普及や広報における取り組み
- 地元住民・若者を巻き込んだ社会貢献活動の設計

参照リンク

<u>Transforming Communities Through Youth Sports | LA84 Foundation</u>

※募集時点での視察先および旅程は全て予定であり、一部変更になる可能性がございますのでご承知おきください。 参加者の皆様には視察内容・視察行程が最終決定し次第、ご連絡いたします。

事前プログラム概要

プログラムテーマ(1):経営の仕組み

収益分配、トレードの仕組み、短期間の契約制度設計、リーグの制度設計等



井上 雄平 (Yuhei Inoue) 氏

米国イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校 応用健康科学部 スポーツマネジメント領域 教授

主な経歴

- スポーツ経営学者。2005年、筑波大学第一学群(現社会・国際学群)社会学類 卒。米プロスポーツリーグNational Football Leagueの日本支社NFL Japanにてアメリカンフットボールの普及に従事した後、2006年に大学院留学のため渡米。2007年にオハイオ州立大学にてスポーツ・エクササイズマネジメントの修士号(M.A.)、2011年にテンプル大学にて経営学の博士号(Ph.D.)を取得。
- メンフィス大学助教(2011年-2014年)、ミネソタ大学准教授(2014年-2019年)、英国マンチェスターメトロポリタン大学教授(2019年-2024年)を経て、2024年8月より米国イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校の教授(スポーツマネジメント領域)。
- 主な研究テーマは、スポーツを通して個人や社会のウェルビーイングを向上するための組織やイベント、プログラムのマネジメントを明らかにすること。「Journal of Business Research」、「Journal of Business Ethics」、「Journal of Sport Management」、「Sport Management Review」など経営学やスポーツ経営学の主要な国際学術誌にこれまで60本以上発表。また、「Sport Management Review」の副編集委員長、「Journal of Sport Management」の編集委員を務める。2016年には、世界最大のスポーツ経営学会である北米スポーツマネジメント学会(NASSM)にて日本人初のリサーチフェローに任命された。

プログラムテーマ②:スポーツホスピタリティ

ホスピタリティやプレミアムチケットを活用した客単価の向上の仕組み



STH Group

概要

- スポーツトラベル・ホスピタリティを専門とする代理店
- 拠点: ロンドン(本部)、マイアミ、シドニー、メルボルン、オークランド
- ラグビーワールドカップ、クリケットワールドカップ、オリンピック、WBC等スポース国際大会のトラベル・ホスピタリティパッケージのデザイン・運用・販売を行っている
- プレミアムチケットの施策設計やホスピタリティの先進事例を学ぶ



平田 賢佑(Kensuke Hirata)氏

STH Group Account Director

概要

- 台湾生まれ、日本、香港、上海育ち。2016年香港大学卒業
- 2020年、スポーツ国際大会のトラベル・ホスピタリティパッケージの設計や販売を専門とするSTH Group入社。来場者やVIPゲストの体験価値向上のため、東京2020オリンピック、WBC等のスポーツメガイベントのトラベル・ホスピタリティパッケージを手掛ける。
- 2020年にSTH入社前は、ラグビーワールドカップ2019の組織委員会にて、 Tournament Workforce DevelopmentにてCoordinatorとして従事。